

---

# 謎の少女は、古代兵器!?! ~ 声と心を失った少女 ~

真音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

謎の少女は、古代兵器！？～声と心を失った少女～

### 【Nコード】

N3032M

### 【作者名】

真音

### 【あらすじ】

このお話は、『名探偵コナン・謎の少女VS黒の組織』の続編です。マリンが亡くなって、3年後、新一<sup>コナン</sup>、志保（哀）は、ある日、黒の組織の残党が、1人の少女を誘拐する現場を目撃し、警察、FBIと共に、少女の保護をするため、残党を追う。しかし、これが再び訪れる、悲劇の始まりだった……。このお話は、私なりの最終回です。

## 少女の秘密

マイン・オーシャン

・本名は、『マイン・オーシャニアン』。

・マリンの6つ年下の義妹。5歳。

・先天性の重度の心疾患と、喘息を患っている。1年間のほとんどを、病院で過ごし、入退院を繰り返している。

・超能力者<sup>サイキッカー</sup>。その、強力な超能力で、国を1つ消し飛ばし、近辺の国にも、壊滅的な被害を及ぼしたことから、『生きる古代兵器』と呼ばれている。また、マリン同様、魔法も使える。

・『神の一族』の末裔で、『神の子』。

・特徴は、(偽りの姿)肩甲骨のあたりまである黒髪と、青く大きな瞳、髪につけている水色のリボン。

(真の姿)肘のあたりまで届く青色の髪に、深海のような色の青い瞳。

・性格は、冷静沈着。ときどき、笑顔で恐ろしいことを口走り、他の人を戦慄させることもしばしば。

マリンがいなくなつて(3年以上前)からは、両親の『ある怒り』から、『死神』などと言われ、虐待を受け続け、2年前、精神的なストレスから、声を失つた……。『人間恐怖症(?)』のような感じになり、人間は、誰1人信じない(信じることができない)……。甘えること、かわいがられることを知らず、新一<sup>コナン</sup>や、志保(哀)達の優しさに、当初は、驚きを隠せなかったようだが、しばらくするうちに、その優しさに安堵し、涙を流すようになる……。しかし、完全に心を開く前に、亡くなつてしまふ……。

ミアン

・ミアンの過去に現れた、謎の少女。

後ほど)

(続きは、

## 1・謎の少女との接触・・・謎めいた誘拐事件

マリンとの死別から3年後・・・、志保（哀）の叔母・シャロン（ベルモット）は、結局、これから3年間の間、刑務所で過ごすこととなった・・・。そんなある日、1週間ぶりに刑務所を訪れた新一<sup>ナシ</sup>、志保（哀）は、その帰りに、ある事件に巻き込まれることとなる・・・。

志保 「ねえ、新一・・・。」

新一 「何だ？志保。」

志保 「あそこから、悲鳴が聞こえるけど・・・。何かあったのかしら・・・？」

言われてみると、確かに悲鳴が聞こえた・・・。

新一 「本当だ、行ってみよう。」

そう言った新一は、早歩きでその場所に向かった。そんな新一を微笑みながら見ていた志保も、新一との間が開いてしまっているのが気が付き、新一を追って走って行った・・・。

そこで、新一と志保は、信じられない事実を知ることとなる・・・。

新一 「あの、すみません・・・。ここから悲鳴が聞こえたのですが、何かあったんですか？」

男の人「誘拐事件だよ、工藤君。」

志保 「誘拐事件？」

女の人「そうよ。つい、さっきのことよ……。この近くを歩いていたら、そばを歩いていた1人の女の子が、2人の男に捕まえられて……。すでに意識がなかったらしく、悲鳴も上げなかったわ。その後、この場所で数十カ所も刃物で切られて……。その2人に連れ去られていったわ……。」

新一 「その男達の特徴とか、覚えていませんか？」

女の人「そうね……。2人共、黒い服を着ていたということしか覚えていないわ……。」

新一・志保「!!!」

志保 「黒の組織の残党……。」

新一 「その、誘拐されたっていう女の子、どんな感じの子か知りませんか？」

男の人「たしか……。青い髪に、褐色の肌だったな……。」

新一 「青い髪に、褐色の肌……。貴重な情報、ありがとうございます。それでは、失礼します。」

男の人「あ、ああ……。」

そう言っつて、新一は、志保の手をつかみ、志保を連れ、去っていった……。

志保 「ちょっと、新一……？」

新一 「ジヨディ先生に連絡して、FBIの人たちに、集まってもらおう……。あと、警視庁にも……。」

志保 「どういふこと……？」

新一 「おれの推理が正しかったら、その女の子は、すごい人物かもしれない……。」

志保 「????？」

新一 「情報が必要だな……。とりあえず、警視庁に言ってみよう……。行くぞ、志保。」

志保 「え、ええ……。」

そうして新一と志保は、警視庁に向かった……。

(つづく)

## 2・謎の少女の正体・・・『兵器』と呼ばれた『神の子』

1時間後、警視庁で・・・

新一 「こんにちは。目暮警部は、今、いらつしゃいますか？」

目暮 「お、工藤君に、志保君じゃないかね。珍しいな、君たち、ここに来るなんて。」

そう言われて、新一は、なぜここに来たのかを、思い出した・・・。

新一 「そういえば・・・。目暮警部、事件です。」

目暮 「何！それは、本当かね？」

新一 「はい。3年前に壊滅したはずの、『黒の組織』の残党が、まだいたみたいで・・・。1人の少女が、誘拐されたそうです。」

目暮 「・・・・・・・・」

目暮警部は、あまり驚かずに、浮かない顔をしている。そして、他の刑事も・・・。

新一 「目暮警部？」

そこで、目暮警部は、新一たちにある事実を告げる・・・。

目暮 「大体、予想は付いている・・・。工藤君、志保君、君たち

には、黙っていたが、マリン君には、6歳年下の義妹がいるんだ・  
」。

新一・志保「!!!!」

さすがの新一と志保も、これには、驚きを隠せない様子……。

新一「本当ですか、目暮警部。」

目暮「ああ。高木君……。」

そう言われて、高木刑事(?)は、少し驚いたようで……。

高木「は、はい……。少女の名前は、『マイン・オーシャン』。  
5歳。黒髪のとくと、青色の髪のとときの、2つの姿をもっているそ  
うです。」

新一・志保「!!!!」

どうやら、志保には、この名前に聞き覚えがあるらしくて……。

志保「同じ……。誘拐された、『あの子』と……。」

新一は、志保の『あの子』という発言がひっ掛ったらしく、志保  
に聞き返した……。

新一「どういうことだ?志保。」

志保は、1度躊躇したが、新一たちに、ある事実を告げた……。

志保 「おそらく、マリンちゃんが彼らに狙われていたのは、義妹の存在を、組織の残党が知っていたから……。マインちゃんのことなら、聞いたことがあるわ。通り名は、『生きる古代兵器』……。父親は、『神の一族』の血を引いていて、『神の子』とも呼ばれているわ……。」

そう、マリンは、妹であるマインが持っている『ある能力』などを、マリンも、持っているかも知れないという、理不尽な理由で、狙われていたのだ……。

一同 「!!!!!!」

新一 「どういうことだ？」

志保 「マインちゃんは、『超能力者<sup>サイキッカー</sup>』なの。彼女の超能力は強力で、1度、国を1つ消し飛ばし、近辺の国にも、壊滅的な被害を及ぼしたそうよ……。」

一同 「……………」

志保 「でも、『先天性の重度の心疾患』と、『喘息』を患っている、1年間のほとんどを病院で過ごし、入退院を、繰り返しているって聞いたわ。」

そのことを聞いた途端、新一の顔色が変わった……。

新一 「!!!!!!」

もちろん、その反応を、志保が見逃すわけがなかった……。

志保 「どうかしたの?」

新一 「もしも、マインちゃんが、気温などの温度差に弱かったら、彼女の命が危ない!」

一同 「!?!?!?!」

志保 「新一……。」

いつもとは違う、不安そうな志保……。

新一 「すぐに、FBIの人たちにも連絡して……、一刻も早く、奪還作戦に移りましょう。」

いつになく、真剣な新一……。

日暮 「よし、急ぐぞ。一刻も早く、マインちゃんを、救出するんだ。」

一同 「はい。」

こうして、謎の少女・マインの、救出作戦が、始まった……。

(くじく)

### 3・FBIとの再会・・・告げられる、少女の『謎』

数日後、FBIとも連絡を取り、すぐに作戦会議が行われた。会議終了後、新一<sup>コナン</sup>、志保（哀）の2人は、FBI捜査官のジヨデイとジエームズに、呼び止められた・・・。

新一<sup>コナン</sup> 「どうかしたんですか？ジヨデイ捜査官・・・。」

新一<sup>コナン</sup> が問い掛ける・・・。

ジヨデイ 「いえ、大したことじゃないんだけど・・・。貴方達に、マインちゃんの『過去』を教えておいたほうが、いいと思って・・・。」

新一<sup>コナン</sup> ・志保（哀）

「！！！」

新一<sup>コナン</sup> 「マインちゃんのこと、何か知っているんですか？」

新一<sup>コナン</sup> が、質問（？）すると・・・。

ジヨデイ

「ええ・・・。マリンちゃんと貴方達が出会った3年前以上前から、マインちゃんは、マリンちゃんの両親から虐待を受け続けていたらしいの・・・。」

新一<sup>コナン</sup> ・志保（哀）

「！！！！！」

2人は、予想外の事実にも、驚きのあまり、声が出なかった……

ジヨディ

「そして2年前、精神的なストレスから、声を失って、『人間恐怖症』のような感じになり、誰1人、信じようと思えないそうよ……」

新一・志保（哀）

「……」

2人は、予想外だった……。マインが、マリンと出会った3年くらいも前から、両親から、虐待を受け、2年前に、声を失っていたとは……。

新一「マインちゃん……。」

新一は、マインの壮絶な『過去』を知り、言葉が出てこなかった……。

志保（哀）「あの……、質問してもいいですか？」

沈黙を破るように質問をしてきたのは、志保（哀）だった……。

新一「志保……？」

志保（哀）「さっき、ジヨディ捜査官は、『マリンちゃんと、マインちゃんの両親』ではなく、『マリンちゃんの両親』って、言ってたわよね……。何故かしら……？」

新一「そう言えば……」

思い出したように、新一<sup>コナン</sup>が言った……。

ジヨデイ

「実は、マインちゃんの両親は、マインちゃんが生まれて間もないころに、殺されたのよ……。その犯人は、マリンちゃんの両親たちで、その後、マインちゃんは、マリンちゃんの両親に連れて行かれ、『マリンちゃんの両親の子供』、『マリンちゃんの妹』として、偽って育てられていたらしいわ……。でも、扱われ方は全く違い、マインちゃんに対する扱いは、かなりひどかったそうよ……。両親の目的は、マインちゃんの持つ、『力』だけだったそうだから……。」

新一<sup>コナン</sup>・志保（哀）

「……。」

あまりにもかわいそうで、2人は、何も言えなかった……。

ジヨデイ

「2人共、マインちゃんを救うことができるのは、貴方達だけよ……。とりあえず、まずは、奪還作戦を成功させて、マインちゃんを助けることだけに、集中しましょう。後は、作戦が終わり次第、考えましょう。」

一同 「オー！」

いよいよ、『マインちゃん、救出作戦』の幕が開かれる……。

（つづく）



3・FBIとの再会・・・告げられる、少女の『謎』（後書き）

ハローです。 お久しぶりですね。

そう言えば、先週から、『名探偵コナン』のオープニングが、変わったんですよ。倉木麻衣さんの『SUMMER TIME GONE』。私は、超ハッピーなんです。皆さんは、どうですか？

（駄目だし、感想も、よろしくお願いします。）

#### 4・少女の悲しみ・・・『誰か、私を殺して・・・』

新一<sup>コナン</sup>達が、『マインちゃん、救出戦』に向けて、一致団結していたころ・・・、マインは、縄で縛られ、車のトランクに閉じ込められていた・・・。力を使おうにも、特別な石で作られた手錠をつけられていて、力が出せずにいた・・・。

マイン「（この人たちも、私を殺そうとするの・・・？『死神』だから・・・、『デキソコナイ』の『クス』だから、軽蔑するの・・・？『デキソコナイ』なんか、いらぬいの・・・？また、私を1人にするの・・・？もう、1人は、嫌だよ・・・。私を・・・、1人にしないで・・・（泣）。1人になるくらいなら・・・、いつそのこと、死にたい・・・。誰か、私を・・・殺して・・・。マインちゃん・・・。どっ・・・？）」

悲しみのあまり、泣き出してしまったマイン・・・。しかし、声と心を失った彼女の助けを求める声は、誰にも届くことはなかった・・・。

( つづく )

4・少女の悲しみ・・・『誰か、私を殺して・・・』(後書き)

悲しみに押しつぶされそうになるマインの心・・・。彼女の過去に、一体、何があったのか・・・。マアンちゃんとは、一体、誰なのか・・・？

次回、マインの過去が明かされます・・・(たぶん)。

5・少女の過去・・・失われた、『希望の光』（前書き）

遂に、『マインの過去』を明かすときが来たようですね・・・。  
私、『過去編』を書いたことがなくて、長々とした駄目文となっ  
てしまいかもしれませんが、どうぞ、よろしく願います・・・。

## 5・少女の過去・・・失われた、『希望の光』

5年前、1人の少女が生まれた……。少女の名前は、『マイン・オーシャニアン』。マインは、特別な力を持って生まれてきた……。幸せな家庭に生まれたマイン……。誰もが、彼女は幸せになると、信じていた……。

しかし、彼女は、生まれて間もなく両親を惨殺された……。

大きな恐怖に顔を歪め、泣き叫ぶマイン……。そんなマインも、何者かに連れ去られてしまう……。マインを見つめる、1人の少女……。彼女の体は、血だらけだった……。

その後、目を覚ましたマイン……。マインは、ある場所に監禁されていた……。そこは、マリンの家だった……。暗闇の中にマインの泣き声が……。

だが、さらなる不幸が、マインの身を襲う……。

マイン「疲れた……。休憩したい……。」

この家に来てから、働きっぱなしで、疲れ果てているマイン……。しかし……。

マリンの母

「預かってやっているだけでも、感謝しな、『デキソコナイ』。さあ、働け！」

ザクツ……。ブスツ……。

マイン「あれ、痛くない……。どうして……。？」

来るはずの痛みがなく、驚き、恐る恐る目を開くマイン……。  
と、そこには、例の事件のときにいた、少女が……。

マイン「どうして……。貴方、何者なの……。？」

少女「（私には、名前というものは、ありません……。あるのは、機械並みの破壊力を持つ『超能力』などと、『マアン』という3文字の片仮名だけです。）」

マイン「マアンちゃん……。？」

マアン「（名前をお呼びいただけ、光栄です。『神の子』さん……。）」

ニコッ……シ

マイン「（／／／／）……」

効果音のつきそうなその笑顔に見惚れてしまう、マイン……。しかし、我に返り、すかさず質問をする。

マイン「マインちゃん……。貴方は、一体……。」

マアン「（私の正体なんか、知らない方がいいんです。でないと、貴方達も殺されてしまう……。では、私はこの辺で……。失礼いたします。また、お会いしましょう、『神の子』さん……。）」

そう言うと、忽然と姿を消したマアン……。4人は、その姿に、目がテンになっていた……。

マリンの父

「何だったんだ……。あの小娘は……。それより……。本当にこの『クス』が……。『死神』が……。あの『神の子』なのか……。」

驚いたままの、マリン達……。

そんな3人とは裏腹に、またあの辛い日々が続くのかと、大きく目を見開き、震えるマイン……。

こんな日々が3年間程続いた、ある日……、

マイン「……。」

マリンがいなくなり、マインに対する虐待は、エスカレートしていた……。度重なる虐待に耐えられなくなり、逃げ出そうとしていたマイン……。と、その時……

マリンの母

「で、いつ殺すの？あの『デキソコナイ』。」

マリンの母の言葉に、今まで以上に震えるマイン……。そこに、マリンの父が追いつちをかける……。

マリンの父

「明日にでも、殺すさ……。そろそろ殺さないと、ばれるだろ……。俺達3人が、あいつの両親たちを、殺したってな……。」

マインの父の言葉に、驚き、逃げ出すマイン……。

マイン「(嘘でしょ……。あの人たち、私を騙していたの……？あそこにいたら、殺されてたの……。？私から、いろんな人も、幸せも奪っておいて、ずっと扱き使っておいて……。用済みになつたから、始末しようとしていたなんて……。私の味方なんて、マアンちゃんしか、いなかったんだ……。もう1度、愛してほしかった……。誰か、私を……。愛して……。)(マアンちゃん！！！)」

「マアンちゃん」……。そう、声にしたはずなのに、声にならなかった……。

その悲しみに、涙するも、もう、声にすることは、できなかった……。

(くじく)

5・少女の過去・・・失われた、『希望の光』（後書き）

暗い・・・。そして、壮絶な過去・・・。

書く方も、辛かったです（ある意味）・・・。

こんな感じで、どうでしょう？

感想、駄目だし、そして、リクエスト、お待ちしております。

次回も、よろしく願います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3032m/>

---

謎の少女は、古代兵器!? ~ 声と心を失った少女 ~

2011年10月6日20時49分発行